

ぎふ・プラハ音楽院セミナー

プラハ音楽院教授 ミラン・ランガー先生(ピアノ)とダナ・ヴラホヴァ先生(ヴァイオリン)のセミナーを本校の生徒3名が受講しました

また、音楽科1,2年生がセミナーを聴講しました

新井 日葵
シューベルト：即興曲 Op.142-3

田中 優花
ブラームス：2つのラブソディ
Op.79 第1番



2つの公開レッスンから、技術と表現の観点から、それぞれどのように演奏に生かすかを指導していただきました。

～聴講した生徒の感想より～

・ひとつのフレーズの中にもいろいろな要素があり、すべてを整理していく必要があると学びました。例えば、声部を聞き分けて、それぞれの声部において、レガート、アクセント、ダイナミクス、声部のバランスを考え、音をよく聴いて自分で組み立てていくことが大切だと知りました。自分の指や手の都合でバランスが崩れないように、注意深く取り組みたいです。

・強弱は p mp mf f …とあっても『f』だからといって同じ圧で弾くのではなく、フレーズの中の頂点を見つけ、そこまでのプロセスでどういうふうにしていくのかを考えて演奏したいです。『f』に到達するまでの道のりをしっかり計画たてて演奏することが大切だと分かりました。また、ひとつのフレーズだけでなく、曲全体の中での大きな構成を考えていきたいです。

浅井 絢香
サン＝サーンス：ハバネラ
Pf.荒畑 理美

特徴的なハバネラのリズム
を表現に生かすためのレッス
ンをしていただきました。



～聴講した生徒の感想より～

・曲によって様々ですが、淡々と弾くのではなく変化をつけて自分自身が楽しんで弾くことが大切だと分かった。今回のハバネラでは、リズムカルな曲調を自分自身が踊るように、アクセントをつけながらも軽やかに演奏すると、生き生きとした演奏になると感じた。私はピアノ専攻ですが、取り組んでいる曲には独特なダンスのリズムやパッセージがあるので今日学んだことを生かしていきたい。

・自分の演奏を、客席の後方までどう伝えるかが大切だと分かった。自分のまわりだけの音楽にならないように常に意識して、客席の人にはどう聴こえているのか常に意識して練習したい。

・同じ音の連続でも少し空間をはさむだけで、音楽に遊び心が生まれダンスの印象がつよくなることに驚いた。いろんな曲を練習する中で、フレーズを作り方の研究をして、いかに生き生きとした演奏にするかを研究していきたい。



今回の公開セミナーでは、
岐阜県教育文化財団・岐阜県チェ
コ友好協会のみなさまにご協力
いただきました。
貴重な機会をありがとうございました。

